

SNF・フローリング受注

先月東北のお客様からアメリカ広葉樹で製作した最も環境に優しい服部商店の商品SNFを受注しました。SNFとは、服部商店オリジナルフローリングです。この商品の特徴は他社が扱っているフローリングとは全く違います。森林認証（SFI）材のアメリカ広葉樹原料を使い、お客様のニーズに合った完全オーダーメイドフローリングです。この商品の特徴を解かり易く下記に書きます。

- * 一つ目の特徴として木目・色合いの違う七種類の材質から選んで頂けます。
- * 二つ目の特徴として床暖房に対応することも可能な設計です。
- * 三つ目の特徴は巾が105ミリの巾広設計です。
- * 四つ目の特徴は厚みが20ミリもしくは18ミリの極厚設計です。
- * 五つ目の特徴はフローリングを作るとき現地から直接購入した板を一枚一枚見てフローリングに適した板にて作っていますので木材の浪費が少ないのです。

今回受注した商品はSNFシリーズのアメリカンブラックチェリーにて製作しました。



左記の写真はアメリカンブラックチェリーフローリングの出来上がった時の物ですが、**ブラックチェリー材の特徴で紫外線を受け下の様に経年変化をして凄く鮮やかなチェリー色に変化します。**

アメリカンブラックチェリー



アルダー	アッシュ	レッドオーク
		
パシフィックコーストメープル	ハードメープル	ブラックウォールナット
		

* SFIとは持続可能な林業イニシアティブです。適応されている地域はアメリカ・カナダの東・西海岸の広葉樹生産地域です。SFI認証材とは持続可能な森林から生産される本当に環境に優しい製材品です。

商売は難しい

服部商店は色々な方たちのお陰で商売をさせて頂いています。仕入先は多種多様な方々がいらっしゃいます。今回何時もお世話になっています米材針葉樹を分けて頂いている仕入先様の件で凄く悩みました。マーケットが凄く悪いのは皆様もご理解出来ると思いますが、流通の一番川上はもっと困難な事は余り知られていないと思います。アラスカ材のシッパーから直接仕入れしている方は値段が高い又は材質が良くないからと言って断る事は事実上不可能なのです。

今回商いをして初めて単価でお断りをしました。先方の方には凄く悪い事をしたと思いますが、今回は自分たちの想定したコストから思うと余りにも離れすぎていた為に断りました。それは本当に辛いものが有りました。商売とは断る事の方が遥かに難しいのです。

話しを変えて住まいの話にします。私がお付き合いをしている工務店さんと私の間の話です。私は賃貸マンションを持っています。その物件でリフォーム工事を3年ほど前から進めています。部屋数が約30有るのですが、リフォームするとき、こちらの予算も有るので見積もりを取りますが、相見積もりは基本的に取れません。10年位前に外壁の塗り替えをしたとき一回だけです。

建築士さんは物件が有る場合工務店さんとお施主様の中間の役目なのである意味クールに物事が進められるかも知れませんが私はそうでは有りません。雨漏り一つでも有る場合直ぐに駆けつけて改修をしてくれる工務店さんが良い業者だと思います。直ぐ直す必要が有る屋根の改修工事を一々何社かの見積もりを取るのとは不可能です。トイレの下水の詰まりの修繕も同じことだと思います。

商いとは『あきない』と読みます。あきずにする事しか商売は無いのです。

反対の行動を取るのには、勇気はいります。

2月9日に名古屋にて開催された広葉樹の原木市に出かけましたが、タモは凄く人気がありました。それに比較してナラはさほどの人気は有りませんでした。市場動向を見たらタモを仕入れしたほうが良かったと見えますが、私はあえてタモの入札には参加しませんでした。それには深い理由が有ります。祖父・父親から教え込まれた服部商店の哲学みたいな物です。それは理解しにくい話『木は山で買わず海で買え。魚は海で買わず山で買え』ですが解かり易く説明します。

木は山で直販売されています。魚は海で直販売されています。山で販売されている木材を海で買おうとすると数件の流通がかんでいきます。例えば2社の流通がかんでいたらその分コストが高く付く訳ですが、それが決して高くなるとは決まっていないのです。

木材とりわけ原木は流通がかんでいたほうが、利口に入る事が度々有ります。先ほどのタモ・ナラの話ですが、この原木はロシア産です。出品者が治安の決して良くないロシアまで検品に出かけて決死の覚悟で買い付けをしてきているのです。出品者は高く売れる原木も有れば安くしか売れない原木も有るのは知っています。そして上級材しか今は売れない事も知っています。これは売り手から見た場合を説明したものです。今度は買い手側から見ると、優良材が本当に少なくなっている事は皆知っています。又先々も優良材の入荷見込みは少ないと聞いています。その時タモとナラ両方共注文が有るのでは有りません。本年度の3月現在に注文が多いのはタモの上級材です。ナラの注文は有りますがタモの方が優良材を多く必要としているのです。そんな時に服部商店はツキ板クラスのトップの原木は全く買えません。そうかと言って普通の製材クラスの原木も欲しく有りません。幾ら熱心に下見をしても徒労に終わってしまいます。以前服部新聞で原木の下見を熱心にするしか優良原木を買い付け出来ないと書きましたが、それは今回の名古屋の広葉樹の市には当てはまらないのです。はっきりとした情報『タモ原木の上級材が少なく、ナラ原木より注文が多い』が解っているときは当てはまらないのです。こんな時先ほどの話『木は山で買わず海で買え。魚は海で買わず山で買え』が大事になってくるのです。直接山に行けばタモもナラも売っています。しかし片方だけ買い付けする事は不可能です。流通が何社か入っていても欲しい原木が適正価格で買えると言う事の方がメリットが現実には多く有るのです。

服部商店の仕入れ方針は何時も売りであり買いである。それが服部の方針である。逆も又真理なり。

商品の違い・製材品を較べる

ナラ34ミリ板を久しぶりに北海道の製材工場から製品で仕入れしましたが、服部商店で作っている同じナラ34ミリの板と比較すると全く違う物だと思います。北海道の製材工場の板目板の仕様はただの板目です。中柵では無く柵は流れていますし目切れも凄く多いです。それに比較すると服部商店の製材したナラの板は木目も美しいし目切れも少ないです。その違いが狂いの少なさに繋がっていると私は思います。

↓ 北海道の製材工場にて私が選別したナラ34ミリ板目製材品です。 ↓



特別仕様の北海道挽き製材の明細です

長さ/巾	310 ㎜	320 ㎜	330 ㎜	340 ㎜	350 ㎜	360 ㎜	400 ㎜	枚数	材積
2.9 メートル					1			1	0.0345
2.7 メートル					1			1	0.0321
2.6 メートル					1			1	0.0309
2.5 メートル			1	1				2	0.0570
2.4 メートル				1			1	2	0.0604
2.3 メートル		1	1					2	0.0508
2.2 メートル			1			1		2	0.0516
2.1 メートル			1					1	0.0236
2.0 メートル	1		3					4	0.0884
1.9 メートル	1	1	2					4	0.0833
1.8 メートル	1	2	1		1	1		6	0.1218
1.7 メートル			1					1	0.0191
1.6 メートル	1							1	0.0169
1.3 メートル			2					2	0.0292

材積 0.6996M3

* 上記 B/L はただの板目ですが、50B/L につき 1B/L しか出来ない貴重な商品です。

下の明細と写真はナラ材(板目)として一般に流通している材です。

↓普通の北海道の製材工場にて製材したナラ 3 4 ミリ F/1 の明細です。 ↓

長さ/巾 センチ→	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	27	29	枚数	材積
2.1 メートル	17	4	7	5	1	3	2	2	1	2				44	0.5455
2.2 メートル	16	5	2	7	1	3	1	6		2		1	1	45	0.6104
2.3 メートル	4	2	3	2	3	1	2	3	1					21	0.3026
2.4 メートル	6	2	2	2		1	1			1				15	0.2097
2.5 メートル	1	2	1	1			1			2				8	0.1284
2.6 メートル		1	1	1	1					2				6	0.1043
2.7 メートル			3				1	1	1	1				7	0.1294
2.8 メートル	1	1	1	1							1			5	0.0866
2.9 メートル		2	3											6	0.1055

材積 2.2224M3



上の商品は一般に**等級ルールF/1**として現在主に流通している商品です。北海道の製材工場ならびに中国の広葉樹製材工場・ロシアの広葉樹製材工場も大体同じスタイルを取っています。(5つのルールが有ります。)

1、長さは1800ミリ～2300ミリ・2400ミリ～2900ミリ・3000ミリ～3700ミリ・3900ミリ上と約4つのグループをつけて各々値段を付けているのです。

2、巾は基本的に150ミリワイダーです。ただし巾広材は前ページのように抜かれています。

3、Fは基本的に赤身材が主体です。1はNO1の意味です。シラタが多めに入りますという意味ですが、一番気をつけなくては行けないのがFとNO1の比率なのです。バラツキが凄く多いのが現状です。

4、板目の仕様の梱包ですので柾目は当然外されていますが、板目にも柾目にもならない材は入っています。

5、厚みは有っても板がたてに反っている材木屋用語でたて反りは混入しています。例えば長さが4000ミリ有ってもその長さのまま使えない事が多々有ります。『建築士さんのお話で、施工後凄く狂いましたとお話を頂きますが、このたて反りが一因ではないかと私は思っています。』

下の写真は3月3日に服部商店自家工場にて製材したナラ34ミリの製材品です。前々ページ及び前ページの写真と比較して下さい。同じナラ材の製材品ですが全く違う物のように私は思います。又この違いが物作り（住いの造作工事・家具作り）の方たちの為に服部商店のノウハウが生かされた商品です。

他社の材との違いを簡単に三項目に纏めます。

- 1、応力を抜いた製材をしているので板の暴れ方が少ない
- 2、木に対して優しい製材をしているので木目が美しい
- 3、屋根の下で時間を掛けて乾燥させているので、製材品の仕上がりが美しく使い易い。



上記の写真の明細が下記の物です。巾が凄く広い事は前ページ明細と比較したら解ると思います。私がここで取り上げたいのはナラの引き合い『34ミリの板目の価格を知らせて下さい』が来るのですが、答えるのに凄く困るのです。それは服部商店の自家工場で製材した製材品と他社の製材品を単価と言うひとつの縛りでお答えが単純に出来る物ではないからです。 服部商店の製材品と他社の製材品とは全く違う物です。

長さ/巾	250ミリ	290ミリ	300ミリ	枚数	材積
5000ミリ	1			1	0.0425M3
4800ミリ		1	1	2	0.0963M3
3200ミリ		1		1	0.0316M3
1600ミリ		1		1	0.0158M3

材積 0.1862M3。

値段の比較は凄く難しい作業です。値段が安いから得だと直ぐ考えて購入するのは危険だと私は思います。



長/巾 シ→	260 ミリ	310 ミリ	360 ミリ	370 ミリ	400 ミリ	440 ミリ	450 ミリ	480 ミリ	500 ミリ	510 ミリ	530 ミリ	枚数	材積
3.9M	1	1		1	1		2	1	1	1	1	10	0.5649
3.7M			1			1						2	0.1006
2.9M							1						0.0444

材積 0.7099M3

上記写真と明細は服部商店自家工場で昨年1月26日の製材したナラ34ミリ製材品です。巾が広く長さも長い事が解ると思います。写真を撮った日付は2010年3月5日です。乾燥はもう少しの所まで来ていると思います。下記は上記のナラ製材品の含水率を同じ日に測った写真です。



服部商店では独自の天然乾燥方法を取っています。これは企業秘密で皆様にお知らせ出来ませんが、弊社の木材製品を買って頂いている得意先様には良い評判を頂いていると思います。



上記の写真は服部商店が買いつけたナラ原木です。特別に良いかと聞かれたら『まーまーかなー』と思います。これと比較するのに下記の北海道の広葉樹製材工場の原木写真です。一本、一本は写真ですので解りにくいですが、プロの私が見て思いましたのは、原木の全体の品質は決して落ちる物ではなく、要は量産工場とそうでない工場（服部商店）の違いが製材品の命を決める品質に繋がっているのではと思います。

量産工場の場合、私が製材するとき一番大事にしている仕事（本木で製材する）が疎かになっているのは工場の製材の様子を見れば解ります。そして量を製材しなければいけないから、製材品の干す前の手入れが疎かになり、良い製材品を製材しても乾燥道中日割れを起こしてしまう商品が凄く多い事を自分の目で確かめてきました。ただ北海道の製材工場と我々の様な、こじんまりした製材工場を比較した場合、製材品以外の処分方法の違いで我々側の方が凄く不利な事がある事を最後に書きます。それが原木の皮の処理と木材の端材の処分です。北海道の場合これが、比較的高く処理できるのです。チップ工場が、近所に有るとか、皮が肥料になるとか、こう言う木材製材品に直接関係しない材料がまずまずの値段で処理出来る事は製材工場にとって大きなメリットです。我々はお金を払ってで処分をしています。



建築基準法はどうなるのか

マスコミ報道は国会の論戦『お金の問題と民主党のマニフェストの事』を取り上げていますが、四号特例の問題を一体民主党はどう考え、自民党はこれに対してどう考えているのかさっぱり解りません。建築基準法を見直すのは決して間違っているとは思いませんが、二年ほど前に改正された基準法は当時の竹中大臣も景気に対してマイナスに働いていますとテレビ出演で述べられていました。その後政治家はこの大きな問題に対してどう考えどう行動しようとしているのかさっぱり解りません。建設部会等で議論が仮にされていてもマスコミは一切報道していません。又以前応援していました自民党も全然やる気が有るのか解りません。自民党の議員の秘書に電話を掛ける事が以前有ったのですが、まるっきりやる気が無いのが解ります。彼らは私達の税金で生活しているのです。民主党も自民党も大企業だけが潤う住宅エコポイントだけを宣伝していますが、私は本当のエコ住宅と言うのは、国産の有り余っているスギ・ヒノキを構造材に使い・造作材は出来るだけ無垢の木材を使う住い作りこそ本当のエコ住宅だと思います。エコポイントと言う方法も良いかも知れませんが、主要構造材を国産材で賄った住いに関しては、10年間家屋の固定資産税を100%減免します、と言うやり方のほうが日本の本当の環境問題CO2の25%削減目標に近づくとおもいます。

何故こんな言い方をするのかと申しますと、あのトヨタ自動車が北海道・日高の山を購入している話を北海道で聞いたからです。手入れのしていない混合林の山を大規模に買い取り、小径木を間伐しているのです。間伐された山はすくすくと育ち二酸化炭素を吸い酸素を出します。所謂排出権取引が出来るのです。

しかし本州側の森林は主にスギ・ヒノキしかない単純林です。スギ・ヒノキは主にヨーロッパから輸入される日本の気候風土に合わないホワイトウッドと言う構造材に取って変られているのです。そのせいで日本のスギ・ヒノキの価格は1/3まで下落しているのです。こんな安い価格では持続可能な経済運営は不可能です。

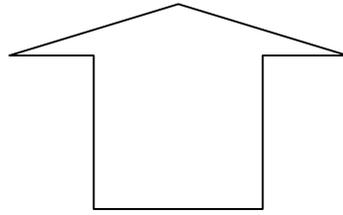
これからの政治には成長と持続可能と言う二つのキーワードが求められていると思います。民主党も自民党も政治と金の問題ばかり議論せず、本当に日本人に優しい政治を目指して、中長期のビジョンをはっきりと打ち出し、それに合った政策を実行して欲しいと私は思います。

ところで私の家の近所(大阪市住之江区西住ノ江～安立地区)で今凄く奇妙な事が起こっています。それは注文住宅でもほぼ100%金属屋根を使っているのです。建売住宅なら不思議に思いませんが、瓦屋根の新築が全く無いのです。私の住いの近所は長屋住宅がまだ多く残っているのです。その長屋住宅は補修されて使われる場合は瓦屋根のまま使われ、何か威風堂々としています。しかし今流の建て方をしている住まいは町並みに合っていません。町並みが崩れる事をこのまま放置しても良いのかと疑問を持ちます。

これと同じ様な事が京都の岡崎地区で起こっていると私の得意先様から聞いています。野村別邸・住友別邸とかまだまだ多くの古い家が残っている岡崎地区で、今の経済状態の影響で家を手放さざるを得なくなり、その後ミニ開発の建売り住宅が林立しかけているというのです。このまま放置すれば京都らしい町並みが崩れてしまい、政府が観光立国を目指す政策をこれから取っても、観光客はそんなに増えないのではと私は思います。

日本の伝統文化の住い作りの良さを残すのに何らかの規制をするほうが、全体の日本人の為になると私はおもいます。その為には多少の私権の制限は必要だと思いますが皆様のご意見を御願い致します。別紙アンケートを用意していますので、多くのご回答を御願い致します。





FAX 072-422-8577

アンケートをお願いします。

1、商品の違い・製材品を較べる・記事は難しい

はい

いいえ

参考になった

その他

()

2、私権の制限は必要だ。

はい

いいえ

その他

()

会社名	
ご担当者名	
ご住所	
電話番号	
FAX 番号	

(株)服部商店

服部雅章

TEL 072-438-0173